

タイトル きみとのなつ。―音羽美和―

スタンス

リスナーは高校三年生男子。演じていただくのは今回も2歳年下の後輩、音羽美和です。前作収録の「きみとのはる。」と「きみとのふゆ。」の間のお話。

夏休みを目前にした美和は、受験勉強で忙しい先輩と遊べないこと、毎日会えないことに恨み言を言います。どこか悪い気持ちもありつつ、受験が最優先の先輩としては、相手をしてあげるわけにもいかず。

ですが、二人の夏休みはそれだけでは終わりません。

先輩の邪魔はしたくない、でも先輩と思い出を作りたい美和の悪あがきは、ほんの少しだけ功を奏します。

それを無碍に突っぱねるほど、先輩は美和のことを悪くは思っていないのですから。

■音羽美和（おとばみわ）

年齢…15歳（入学式時）／16歳（卒業式時）

誕生日…2月16日

身長…151cm（入学式時）／152cm（卒業式時）

体重…44kg（入学式時）／46kg（卒業式時）

スリーサイズ：79-59-82 B(65)（入学式時）

83-59-83 D(65)（卒業式時）

髪型…ショートボブ

性格 明るく澆刺。基本的にいつも元気。先輩とは付き合いが長いため、敬語だが

軽口で、常にからかうような態度で接する。先輩への行為は隠さず積極的だが

前述のノリもあり、お互いふざけているようなニュアンスが抜けない。

すぐに先輩に抱きついたり、挑発するような態度を取るが、本当に尻軽な

わけではなく、根は真面目。成績は悪くもないが良くもない。

備考 中学時代は先輩と同じく陸上部に所属していた。現在は帰宅部。

石橋茜は中学時代の同級生かつ、同じ陸上部。

走り高跳びを専攻しており、とびきりの美人だった。

高校が別になった今でも親交があり、彼女の胸が急激に成長したことについて嫉妬と希望を見出している。

※『指示…』はマイク正面に対する立ち位置になります。

次の指示があるまでは、同じ位置のまま継続になります。

- ・正面 マイク正面に対して向き合って立ちます。
- ・横 マイクの左右いずれかに立ちます。
- ・後ろ マイクの後ろに立ちます。

※『顔…』はマイクとの顔、身体の間隔になります。

次の指示があるまでは、同じ距離にままた継続になります。

- ・前方 「横」位置で、マイク正面と同じ方向を見ている状態です。
- ・マイク マイクと向き合った状態です。
- ・近づいて マイクに顔を近づけてください。
- ・オンマイク マイクになるべく近づきます。基本小声、囁きになります。
- ・少し離れて 上半身を反らせて、マイクから離れてください。
- ・離れて マイクから離れて立ってください。
- ・十分離れて マイクから一番離れた状態です。

※外ロケの場合は、移動しながら喋ってもらうこともありますが、部屋ロケの場合は前回同様、動いてから喋ってください。（当日ディレクター確認）

※実際の会話のテンポを意識して、相手の反応を感じながら十分間を取って演技をしてください。商業作品より間延びしてしまっても大丈夫です。

※マイクとの距離のついて、指示にない横向き、うつむきなど、演技をしていただいて結構です。自然な雰囲気を抑えたいので、逆に指示に縛られすぎないように、ある程度楽にいただいて大丈夫。

※※※以下、最終ページまで、実際の収録内容とは異なる場合があります。※※※

■終業式の帰り道、公園にて

(美和と先輩、ベンチに腰掛けている想定)

(位置…横)

(顔…前方)

美和　はあ……

先輩　(さっきからそればっかじゃん)

美和　だってえ……

先輩　(夏休みで凹むやつ、珍しいぞ)

(顔…マイク)

美和　先輩、なんで私が凹んでるか、もしかしてお分かりでない？

先輩　(なんだよその口調)

美和　質問にお答えいただけますか？

先輩　(だいたい想像つくけど)

美和　じゃあ言ってください、どうぞ。

先輩　(言ったら負けな気がしている)

美和　負けてなんですか、私の日々の献身を何だと思ってるんですか!？

先輩　(強要の間違いだろ……)

美和　あー、やっと美和から開放されるわー、せいせいするわーとか、
そういうことですか？

先輩 （そこまでは言わんけど）

（顔…前方）

美和 否定はしないと、へー。

結局私は、先輩にとって都合のいい女なわけですね！

先輩 （言い方よ……）

美和 あー！先輩と毎日会う口実がなくなるー！早く始業しろー！

先輩 （終業したばかりな件について。

てか、一年の夏休みなんて、遊び放題だろ。うらやましいわ）

（顔…マイク）

美和 いいんですか？ 私が同級生と遊び呆けて、ひと夏の過ちを犯して、夏休みデビューしちゃったら！

先輩 （んー……）

美和 めっちゃ真面目に悩むじゃないですか。今の気持ちをどうぞ。

先輩 （なんかやだな）

美和 私のこといつも適当にするくせに、いざ取られそうになるとムカつく。それはもう私が好きだってことですよ、告白していいですよ？

先輩 （すげえ力技の誘導尋問だなー！！）

美和 まあツンデレの先輩に免じて、同級生男子と爛れた交際をするのは我慢してあげます。

先輩 （言い方……）

（顔…前方）

美和 はーあ、何しよっかなー夏休み。

先輩（どっかいかないのか？）

美和 約束くらいありますけど？ でもさすがに毎日はないですよ。

先輩（そりゃそうか）

美和 先輩はどうせ遊んでくれないだろうし。

先輩（そうだなー）

美和 当然のように肯定しますね。ま、受験生に夏休みはないかー。

先輩（ないなー）

美和 息抜きも？

先輩（ないなー）

美和 ほんとストイック星人ですね。

先輩（いつから宇宙人になったんだよ）

美和 頑張りすぎると死にますよ？

先輩（何の病気だよ）

美和 普通に心配してあげたのに。

先輩（そりゃどーも）

美和 ……

先輩（何か言いたげですな）

（顔…マイク）

美和 ほんとに一瞬も息抜きしない気ですか？

先輩 （瞬レベルではするけどさ、さすがに。）

美和 遊びに行ったりする気はないと。

先輩 （ないな）

美和 ストイック大明神ですね

先輩 （おお、俺、神だったのか）

（顔：前方）

美和 はーーーーつまらない男だなーーーー

先輩 （そこまでデイスるか！？）

（顔：近づいて）

美和 こんなに可愛い後輩の誘惑にミリも反応しないとか、本当に思春期ですか？
ついてます？ 家に忘れてきました？

先輩 （ついとるわアホ）

美和 アホっていうほうがアホなんですー！

先輩 （……）

（顔：前方）

美和 はあ。

先輩 （……なんか飲むか）

（先輩、立ち上がる）

（位置：正面）

（顔：マイク）

美和 飲む！！

先輩 （現金だなー……。何がいい？）

美和 夏っぽいやつ！

先輩 （サイダー？）

美和 ……あ。ラムネ！

先輩 （はぁ？ 自販にないじゃん！）

美和 カドヤまでダッシュですぐでしょ！ ほら、ダッシュダッシュ！

先輩 （はぁ……。待ってろよ）

（位置…後ろ）

（顔…十分離れて）

美和 やさしー！ さすが先輩！ いってらっしゃーい！

■ラムネ勝負

(ラムネを買ってきた先輩、座っている美和と向き合って立っている)

(位置…正面)

(顔…マイク)

先輩 (ほらよ)

(音…ラムネを揺らした音)

美和 ありがとうございます！ ふー！ つめたーい！

先輩 (ラムネとか久しぶりだな)

美和 中学の時、よく部活の帰りに飲みましたよね！

先輩 (いつも奢らされてた苦い記憶なんだが？)

美和 先輩、これ振ってないでしょうね？

先輩 (そこまでガキじゃねーよ)

美和 え、私のブラウス濡らすチャンスだったのに？

先輩 (お前の中の俺って、どんだけアニメ脳なんだよ)

(先輩、ベンチに座る)

(位置…横)

(顔…マイク)

美和 ラッキースケベは男の子の夢なんですよね？

先輩 (どこ情報だよそれ)

美和 あ、先輩ストップ！ まだ開けないで！

先輩 (振ってるかもしれないから交換しろってか？)

美和 ううん、勝負しませんか？

先輩 (……なんの？)

美和 一気飲み！ 私が勝ったら、一日だけ私と勉強会！

先輩 (ほう)

美和 どうですか？

先輩 (お前にしては随分控えめな提案だな)

美和 さすがにそれくらいは空気読めます、受験勉強の邪魔したいわけじゃないし。

先輩 (いいよ、乗ってやる)

美和 やったー！ あ、先輩、ちなみにほんとに振ってない？
今ならラッキースケベ狙ってましたって言っても許しますよ？

先輩 (狙ってねえ！)

美和 なんだー。

先輩 (なんで残念そうなんだよ)

美和 じゃあとりあえず、せーので空けましょう。
万が一ぶしゅーって言ったら、同じ量にしてからスタートで！

先輩 (めっちゃ警戒するな……)

美和 あくまで平等な条件にするためですよ、はい！ 空けて！
(音…ラムネを開ける音)

先輩 (……開いたぞ)

美和 ……ほんとに振ってなかったんですね。

先輩 （どこまで疑うんだよ!!）

美和 はいはい、とりあえずこれで平等ってことで、乾杯しましょう！

先輩 （なんだだよ）

美和 いいじゃないですかー、はい、かんぱーい！

先輩 （かんぱーい）

（音：ラムネ瓶をぶつけ合う音）

美和 はい、じゃあいきますよ？

3. 2. 1で！ 先輩カウントしていいですよ。

先輩 （いいのか？）

美和 はい、ハンデあげます。

先輩 （いくぞ、3，2，1！）

（音：ラムネを飲む音）

美和 ……………ふはー！！ 勝った！！！！

先輩 （はぁ！？ 早くね！？）

美和 むしろ先輩、勝つ気ありましたー？ 中学時代、私に一回も
勝ったことなかったですよね？

先輩 （前より早くなってね？）

美和 成長したのでー。ふふふ！

先輩 （……なんだよ）

美和 なんでもありませんーん、ふふ！

じゃあ先輩、私の勝ちなので、一日勉強会、よろしくお願いします。

先輩 （あいよ、都合がいい日あとで教えろよ）

美和 私決めていいんですか？

先輩 （いいよ別に）

美和 お部屋の掃除間に合います？

先輩 （……なんで自然にお前が来る流れになってんだよ）

美和 あれ、先輩、女の子の部屋に入るの期待してました？
残念ですけど私の部屋、下着とか落ちてませんよ？

先輩 （あのなー……）

美和 別に私の家でもいいですけど。
超勘違いした親に変な気を遣われてもよければ。

先輩 （……俺んちでいいよ。）

美和 きまりー！！
あ、ベッドの下はチェックするので隠しておいたほうがいいですよ？

先輩 （何をだよ！！）

美和 後輩ものとか出てきたら、さすがの私も先輩との付き合い方を考えるので……。

先輩 （やっぱくんなお前）

（位置…近づいて）

美和 うそ、ごめんなさい！ 後輩ものでも受け止めますから！

先輩 （そこじゃねえだろ！）

美和 あれ、違いました？

先輩 (……はあ)

(顔…マイク)

美和 じゃあ、一週間後の土曜日でしょうか。

先輩 (はいよ、確認しとく)

美和 よろしくお願いします!!

先輩 (言っとくけど、勉強会だからな)

美和 もちろん、約束はちゃんと守りますよ。
よろしくお願いしますね!

■勉強会

(机を挟んで、向かい合って座っている)

(位置…正面)

(顔…マイク)

美和 先輩。

先輩 (…)

(顔…近づけて)

美和 せんぱーい。

先輩 (…)

美和 めっちゃ集中してますね。

先輩 (…)

(顔…オンマイク)

美和 先輩って、結構まつげ長いですね。

先輩 (俺じゃなくて参考書見ろ)

美和 今は先輩の顔の勉強中でーす。

先輩 (…)

(顔…近づけて)

美和 喋らないとイケメンですね。

先輩 (飽きたのか)

美和 飽きました。

先輩 (はぁ、こんなことだと思ったよ。)

(顔..マイク)

美和 私的には1時間集中するとかすごいことなんですけど、褒めてください。

先輩 (たしかに思ったよりは静かだった)

美和 やればできるんです。

先輩 (いつもこうなら更に良いな)

美和 いつもは無理。

先輩 (即答かよ……)

(顔..オンマイク)

美和 ご休憩いかがですか。

先輩 (はぁ……)

美和 ちょっとだけ！

先輩 (わかったよ)

(顔..マイク)

美和 やったー！ はい、飴あげます。

先輩 (ありがとう)

(美和、足を崩してくつろぐ)

(顔..離れて)

美和 先輩、いつもこの調子で勉強してるんですか？

先輩 (ん？ まあ、そうだな。気にしたことないけど)

美和 最近は？ 一日中？

先輩 (昼飯食ったりはするけど。そうだな)

美和 何時間くらい？

先輩 (んー、8時間位？)

美和 8時間って労働じゃんそれ！

先輩 (学生は勉強が仕事だろ)

美和 むりー、お金もらえないとそんなに勉強できない。

先輩 (じゃあ受験は無理だな)

美和 んー！！

先輩 (悔しがなくてもいいだろ、お前は)

美和 受験するかもしれないじゃん。

先輩 (……前にも言ってたけどそれ、本気なの？)

美和 ……決めてませんけど。シュレディングアの美和です。

先輩 (……無理して難しいこと言うなよ、間違えてるから意味)

美和 はーい、失礼しましたー。

(美和、寝転がる)

先輩 (ま、ほんとにその気になったら、一時間くらいでへばってちゃダメだな)

(顔…十分離れて)

美和 そうと決めたらやってみせますよ、私の根性なめないでください。

先輩 (そうだな、それは知ってたわ)

美和 ……先輩、東京の大学目指してるんですけど。

先輩 （うん。あ、そういえば言ってなかったっけ。）

美和 直接は聞いてないですね。

先輩 （誰に聞いたんだよ）

美和 私の情報網なめないでください。

先輩 （こわ。……そうだよ、東京。）

美和 なんて大学ですか？

先輩 （お前、聞いてもわからんだろ）

美和 わかんないですけど、名前くらい教えてくれてもいいじゃないですか。

先輩 （早稲田）

美和 聞いたことある。

先輩 （有名だからな）

美和 有名だから行くんですか？

先輩 （俺のやりたいことやるためにだよ）

美和 そこにいけば夢に近づける？

先輩 （そんな感じ）

美和 ふーん……そうなんだ。

先輩 （そういうお前は最近どうよ）

美和 特になんてことない日々を送っておりますが。

先輩 （休憩終わるぞ、拗ねてると）

（美和、起き上がって近づいてくる）

（顔…マイク）

美和 あ、明日水着買いに行くんです、友達と。

先輩 （……へー。）

美和 今絶対に想像しましたよね？

先輩 （いや）

美和 先生怒らないから言いなさい。

先輩 （いつから俺の先生になったんだよ）

美和 見たいですか？ 見たいですよー？ 残念だなー。先輩は勉強で忙しくてプールとか海とか行けないんだもんなー。

先輩 （女子ってどうして、水着毎年代えるんだ？ そんなに着ないだろ）

美和 それ本気で言ってます？

先輩 （……なんか変なこと言ったか？）

美和 ふっ

先輩 （今、鼻で笑ったろ！）

美和 いえ、なんでもないです、童貞だなーって思っただけです。

先輩 （おいー！！）

美和 先輩が女心を理解するにはまだ時間かかりそうですね。ふふ。

先輩 （悪かったな……）

美和 女心は置いといて、普通にサイズ変わっちゃったりしますからね。

先輩 （……へー）

美和 中学の時は全然だったのに、今になってめっちゃ成長した子とかいるし。

先輩 （ほう？）

美和 サイズ聞いたことないけど、すごいんです。
たぶんEか、もしかしたらFくらいあるかも。

先輩 （高一でFってやばくね？）

美和 童貞先輩は知らないと思いますけど、
バストのサイズってただの胸囲じゃないんですよ。

先輩 （え、そうなの？）

美和 トップとアンダーの差なんですけど……まあ、簡単に言うと
ふくよかな子は見た目よりサイズが小さく感じるし、
痩せてるけど胸がある子は逆に大きくなったりしますね。

先輩 （同じFでもボリュームが違うってこと？）

美和 ですね、ざっくりいうと。ちなみにその子は痩せてて
超スタイルいいんですよ。うらやましいー

先輩 （ふーん……）

（顔…近づけて）

美和 ……ってか先輩、さっきからやけに食いつきますよね？

先輩 （ん？ そうだった？）

美和 明らかにテンション上がってますよね？

先輩 (そうか？)

美和 目の前に私がいるのに、FカップJKの想像するんだ。ふーん。

先輩 (いや、想像とか、俺そいつの顔も知らないし。)

美和 ばしこです。

先輩 (え、石橋、茜？)

(音：マイク)

美和 そう、走り高跳びしてた石橋茜です。

先輩 (まじか……あいつそんなにでかくなったのか。)

美和 そうです、胸がなくてもモテたのに、胸がでっかくなって超モテてます。

先輩 (たしかにそりゃモテるわ)

(音：テーブルを叩く)

美和 なんで納得するんですか!!

先輩 (え！？ お前に賛同したただけじゃん！？)

美和 ばしこの水着想像してるでしょ！ 絶対してる!!

先輩 (してない！ 水着はしてない！)

美和 水着はしてないって、じゃあ何想像したの！

(音：腕を叩かれた音)

先輩 (いった!! 暴力反対!!)

(顔：少し離れて)

美和 はー……ないわー……

先輩 (え、なに、怒ってんの?)

美和 ほんとと胸大きい子好きですよね。

先輩 (んー、そう、かなあ……?)

美和 変態。

先輩 (ちょ、マジで目が怖いんだけど?)

美和 どうせ私はF以下の人権なし女子ですよー。はあ。

先輩 (いや、だからそんなこと言っていないだろ一度も……)

美和 ……ふん。

先輩 (ってか、さっきからキレすぎじゃない? 彼女でもないのに)

(顔…マイク)

美和 はあー……!?

先輩 (え……?)

美和 ……今、一番言っちゃいけないこと言いましたよね。

先輩 (あー……まじ?)

美和 言った。言いました。それはマジでない。

先輩 (なかった……?)

美和 ない。

先輩 (……ごめん)

美和 普通に失礼じゃないですか？ 確かに、付き合っではないですけど。
私が先輩のこと、いいなーって思ってるってことくらい、
童貞の先輩でもさすがにわかりますよね？
むしろ童貞は目が合っただけで、あいつ俺に惚れてるぜ！って
思うんですよね？ じゃあこんなにくっついてくる私はもう
完全に惚れてるって話になりませんか？
そこんとどうなんですか？

先輩 (いやー……)

美和 いいです、言わなくていいです。
とにかく、明らかに自分に気がありそうな子の前で、
他の子のエッチな姿想像したり。

お前は彼女じゃないんだから関係ないだろとか、それはさすがにないでしょ！

先輩 (い、石橋のエロいところは想像してないぞ……？)

(顔…近づけて)

美和 そういう問題じゃない！！

先輩 (ごめん、まじでごめんて！)

(顔…離れる)

美和 はー。帰ろっかな。邪魔ですよね私。

先輩 (いや、今日は、邪魔とかそういう日じゃないだろ……)

(十分に間を取って)

美和 問題です。私はどうしたら機嫌が直るでしょうか。
ちなみに謝るだけはダメです。

先輩 (……わかった、こうしよう)

美和 はい、なんでしょう。

先輩 （もう一日、……いや、半日で勘弁してくれ。お前に付き合う）

美和 言質とりましたよ。半日私に付き合ってくれる。それで？

先輩 （何するかは、美和に任せるから、なんか好きなこと。付き合うよ）

美和 じゃあプール。

先輩 （それ以外にしない？）

美和 なんでもいって言ったじゃん！

先輩 （いや、お互いのためだって！

この感じだと、俺が他の女見たら、お前怒るだろ！）

美和 この後に及んで、他の女に目移りする宣言ですか！？

先輩 （いやいやいや、いっぱいいるだろ、プールに行ったら！ 視界に入るから！

不可抗力！）

美和 ……まあ、さすがに見るなっていうのは無理がありますね。

先輩 （だろ？）

美和 はい、プールサイドで先輩ポコポコにする自信あるんで他にしましょう。

先輩 （こわ……）

（十分間を取って）

（顔…近づけて）

美和 ……じゃあ、花火。

先輩 （花火、か）

美和 遠出とかは、半日じゃ無理だから、公園でいいです。いつもの。

先輩 （わかった、それなら全然OK）

美和 ……ふふ。

先輩 （……機嫌直った？）

（顔…マイク）

美和 どうですかね、とりあえず今日は夕方までいます。

先輩 （どうぞご自由に。）

美和 寛大な後輩に感謝してくださいね？

先輩 （そうします）

美和 素直でよろしい！

先輩 （じゃあ、そろそろ再開するぞ勉強）

美和 はーい！ あ、先に花火の日、決めちゃいませんか？ ふふふ！

■公園での待ち合わせ

(ベンチに座っている先輩、やってきた美和、特に立っている)

(位置…正面)

(顔…十分離れて)

美和 おまたせしました。

先輩 (お……)

(顔…離れて)

美和 反応薄い。

先輩 (いや、あー、そう来たか、と思って)

(美和、ベンチに座る)

(位置…横)

(顔…前方)

美和 そうですね、一瞬でも先輩に期待した自分を呪います。

先輩 (そこまで言わなくてもよくない?)

(顔…マイク)

美和 浴衣じゃないのは、さすがに咎めません。

でも、せめて少しはおしゃれしてきてほしかったです。

先輩 (それは、なんかごめん)

美和 ……いくら家近いからって、ジャージできます?

先輩 (ごめん、お前の気合を考慮するべきだった)

美和 反省はしてくれてるみたいなので、許します。けど。

先輩 (なんだよ、ジュース?)

美和 奢れば機嫌が直る女みたいな認識やめてもらっていいです？

先輩 (すまん)

美和 知らない気を遣う前に、私に言うことありますよね？

先輩 (……先日は失礼いたしました)

美和 それ、本気で先輩がばしこのエッチなところ想像してた
みたいになるのでやめませんか。ガチめに凹むんですけど。

先輩 (俺はなんて言えばいいんだよ)

(顔…近づけて)

美和 浴衣の感想!! なんで一番最初にそれ言えないんですか!?

先輩 (なんかデジャブだな、このやり取り……)

美和 ごまかさない! なんで同じ失敗繰り返してるんですか? アホなんですか?

先輩 (アホいうな!)

(顔…少し離れて)

美和 ……いくじなし……

先輩 (なに?)

(顔…マイク)

美和 なんでもないです。とりあえず何でもいいで、
わざわざ浴衣を着てきた私に労いも兼ねて一言どうぞ。はい、3、2、1!

先輩 (ジャージで着てすまん)

美和 ……5点。

先輩 (……10点満点中?)

美和 100点満点中に決まってるでしょ!! はあ、もういいです。
なんか疲れたんで座りましょ。

先輩 (……)

(顔…前方)

美和 暗くなるまでしりとりでもします？

先輩 (それマジで暇なやつが言うことだぞ)

美和 先輩のせいですがご自覚ありますか？

先輩 (俺のせいか……)

美和 どう見てもそうでしょ。

先輩 (花火見る?)

美和 見る。

先輩 (はい)

(顔…マイク)

美和 先に聞いときますけど、自信のほどは？

先輩 (どういう意味だよ)

美和 女子との花火で、買い出し任されたんですよ？
ちゃんと雰囲気とか流れとか考えるでしょ普通。

先輩 (そういうもんか?)

美和 これで、吹き上がる系ばかりだったらマジで戦争ですからね。

先輩 (浴衣でか?)

美和 浴衣の私に遠慮してる先輩にドラゴン花火ぶん投げますから。

先輩 (マジでやりそうな目だなおい)

(音…ビニール袋をがさがさする)

美和 ……あ、ほんとにあるしドラゴン花火。

先輩 (女子ってそれみてきゃーって言わないっけ)

美和 ……先輩の花火って、小学生時代の淡い夏の思い出とかで止まっています？
もしかして。

先輩 (お前、部活の合宿できゃー！って言ってたろ！)

美和 ……そう、でしたっけ。

先輩 (言ってたわ。そんで俺に抱きついてきたわ)

美和 ……はは、そうでしたね、思い出しました。

先輩 (忘れてたのか？)

美和 いえ、先輩、よく部活の合宿のことなんて覚えてたなーって。

先輩 (たった三年前だろ)

美和 じゃあ、肝試しで私と一緒にだったのも？

先輩 (……あのさ、もう時効だと思うから答えろよ)

美和 ……はい。

先輩 (お前、くじ細工したろ)

美和 しました。

先輩（即答かよ！）

美和　なんでわかったんですか？

先輩　（……今思い出すと、疑わしいことがたくさんあるんだよ）

美和　先輩、記憶力いいですね。

先輩　（お前よりはあると思う）

美和　……花火選びは百点です。

先輩　（そうか）

美和　はい。これで浴衣の感想の分はチャラにしてあげます。

先輩　（そりやどうも）

（顔…前方）

美和　……晴れてよかったなあ。

先輩　（降ったらまた別日にすりゃよかったろ）

美和　……おばあちゃんちにいくんです。しばらく戻ってこないから。

先輩　（そうだったんだ。）

美和　だから、これが私の夏休みの最後の思い出です。

先輩　（さすがにそれは言いすぎじゃね？）

（顔…マイク）

美和　そこは。最高の思い出にしてやるよ、でしょ！

先輩　（なんでだよ……）

美和　ふふ、冗談です。冗談。

先輩　（……）

美和　さ、やりましょ！　何からやりますか？

■花火

(花火の順番と大筋に沿いながらアドリブ)

美和 次どれにしようかな……。

美和 先輩さっきやった、色変わるやつどれ？
これです？ じゃあこれやる。

美和 長めのやつがいいなー。

ああ、たしかに。火薬がいっぱい入ってそうなのによろしいのか。

(音…花火を持って、マイクの周りを回る動き)

美和 ドラゴン花火やります？

はは、投げないですって。てか持てないし。

あー、手に持ってドヤってる男子いましたね。先輩やってもいいですよ？

美和 (ドラゴン花火)

美和 きゃー……！

はははは、女子っぽかった？ ははは。

でも今、結構普通に声出ました、ははは。

あーめっちゃ思い出す合宿ー。

え、ふたつ一緒にやりましょうよ。あ、せーのでつけます？

まって、今、点火用の花火つけるんで。

あ、先輩の分も。ドラゴン？ あ、もう置いてます？

行きますよ、はい！ いそいで！ せーの……

ついたついた！

きゃー……！ ははははは……！！

うける、なんか笑えてきますよね、ははは。

はあ、笑った。

なんか静かなやつにしよ。もうないですよねドラゴン。

あと一個あるのー？ じゃあそれ先輩に投げようかな。

嘘ですよー、ははは！ ……あー、あとちょっとしかないやー……

■線香花火

美和 見えます？ うん、そっち持つ方です。

先輩 (これいつもつける方わかんなくなるよな)

美和 わかる、紛らわしいですね。

先輩 (まとめてつけるバカいたよな)

美和 いたー。あれは線香花火への冒瀆ですよ。

先輩 (それは賛成だわ)

美和 まだあります？

先輩 (ちょうどラス2かな)

美和 はーこれですわー

先輩 (ほい)

美和 先輩、落ちないようにしてくださいよ。

先輩 (受験生にそういうこというのやめろ)

美和 最後、集中してやりますか。

先輩 (そうだな)

美和 セーのでいきましょ。
セーの。

(音..線香花火)

美和 ……終わっちゃった。私の夏が。
なんて。ははは……。

■実家へ向かう車の中

（車内、美和は後部座席に座っている）

（位置…後ろ）

（顔…十分離れて）

母 （楽しかった？）

美和 うん。

母 （浴衣、どうだった？）

美和 何も言ってくれなかった。

母 （あら、そうなの）

美和 いっつもそう。制服のときも、なかなか褒めてくれなかったし。

母 （男の子なんてそんなもんよ。恥ずかしいのよ、そういうの）

美和 先輩の場合は意気地なしなだけ。

母 （ふふ……。）

美和 ……でも、やっぱり優しいんだ。

母 （そうなの？）

美和 花火、準備してくれたの。

でね……覚えててくれたの。昔のこと。

母 （昔のことって？）

美和 中学校のときの、陸上の合宿でさ。先輩と花火したの。
そのとき一緒にしたやつ、全部、覚えててくれた。

先輩
（すごいね）

美和
すごい。私だって忘れてたのに。
今日した花火、全部、おなじだった……。

母
（よかったの、おばあちゃんのお家）

美和
……いいよ、家にいても、別にするこゝないし。

母
（先輩はいいの？）

美和
……今日で最後。先輩は受験勉強で忙しいところを、無理して時間作ってくれたんだから。これ以上は無理。

母
（そこは引くのね？）

美和
……当たり前じゃん。私の勝手に、先輩の邪魔、したくない。

母
（……）

美和
先輩は、将来の夢があつて、それに向かつて頑張つてるの。
私がへらへら、邪魔なんて絶対にできない。

母
（そこまで思つてゐるなら、我慢できそうだけど）

美和
無理。

……近くにいたら、会いに行っちゃいそうだから。

母
（恋は難儀ねえ）

（十分間をとつて）

美和
……お母さん、大学行きたいって言ったらどうする？

母
（……先輩を追いかけて？）

美和
……

母 (何度も言ってるけど、あなたを一人で遠くには行かせたくないの)

美和 18になったら、もう、大人だよ。自由にしたいんだけど。

母 (あなたの一人暮らしを十分に支援してあげられるほど、うちは裕福じゃない)

美和 それは、私が働けばいいだけじゃん。

母 (大学には何しに行くの？ 勉強するためでしょう？

生活のために働きながらなんてしてたら、満足に勉強なんてできないわ。)

美和 大学生がバイトするのなんて普通じゃん！

母 (それは遊ぶお金でしょう？ 私が言っているのは生活費。家賃に食費、
あとは奨学金。わかる？ 全部一人で稼げるの？)

美和 ……なんにもしてくれないんだ。

母 (そもそも私は出て行ってほしくないっていつてるでしょ)

美和 お母さんは……この街でくすぶってる私を見て満足なの！？

母 (そんなのわからないじゃない、ここは悪いところじゃない)

美和 外に出たことないくせに、そんなの思考停止じゃん！

母 (あなたより何十年も長くここにいるから言えるのよ。
あなたはまだ15年しかここにいないんでしょ？)

美和 私は……私の欲しいものはここにはないの！

母 (じゃあ、美和の欲しいもの、言ってみなさい)

美和 それは……

母 （先輩、意外に何かあるの？）

美和 ……

母 （美和の恋を邪魔したいわけじゃない。美和には幸せになってほしいもの）

美和 ……じゃあいいじゃん……

母 （よくないの。私は美和より長く生きてるからわかる。

人生、思い通りにいかないこともある。失うこともたくさんあるってこと。）

美和 始まる前から決めつけないでよ!!

母 （美和の人生は、今だけじゃないわ）

美和 お母さん!!

母 （……心配なの。わかって。私はもう、私の手の届かないところで、失いたくないの）

美和 ……その言い方は、ズルいじゃん……

母 （本音よ）

美和 ……あ。

母 （美和？）

美和 ごめん、電話出るから。静かにしてて。

■電話

(先輩と電話をしている)

(位置…正面・最後まで)

(顔…オンマイク・最後まで)

美和 ……もしもし？

先輩 (もしもし)

美和 どうしたんですか？ 何か、ありました？

先輩 (いや、なんもないけど)

美和 用もないのに……珍しいですね。ってか、電話とかかけてくれたこと
ありましたっけ？

先輩 (ないかもな)

美和 私の声、聞きたくなっちゃったんですか？ さっきまで一緒だったのに。
まさか私に惚れちゃいました？

先輩 (ちげーよ)

美和 そこは乗ってくれてもいいのに。

先輩 (……もう向ってんのか？)

美和 はい。今、高速です。

先輩 (まさか今日だとは思わなかったよ)

美和 明日からお盆だから、今日のうちにとって、お母さんが。

先輩 (バタバタさせてなんか悪かったな)

美和 いいんです。先輩、模試とかあったし、今日しかなかったから。

先輩 (……晴れて、よかったな)

美和 はい、晴れてよかったです。

先輩 (遊ぶところとか、あるのか?)

美和 ないですよ。山と田んぼしかないです。

先輩 (親に來いって言われたのか?)

美和 そういうわけじゃないですけど。まあ、友達との約束も大体済んだんで、特にやることもないから、いいかなーって。

先輩 (そんな感じか)

美和 はい。そんな感じです。

先輩 (……付き合ってやれなくて悪いな)

美和 え……。はは、どういう風の吹き回しですか?

先輩 (いや、まあ、俺に余裕があったらもう何日かくらいは暇つぶしに付き合えたかなーって)

美和 そんな気、あったんですか?

先輩 (なんつーか、今日、ちょっと様子変だったからさ。
実家、行きたくないのかなって)

美和 ……気にしてくれてたんですね。

先輩 (まあな)

美和 大丈夫ですよ、行くって言ったの、私だし。

何もないけど、別にそんなに嫌いじゃないんですよ、おばあちゃんのこと。

先輩（そうか、ならいいんだけど）

美和……今日、ありがとうございました。

先輩（こちらこそ、ジャージで失礼しました）

美和だいぶ気にしてますね。

先輩（浴衣を前にしたら、さすがにそうなるだろ）

美和浴衣、どうでした？

先輩（ん？ ああ……なんか雰囲気違って、うん。びっくりした）

美和……びっくりしたんだ、ふふ。

先輩、夏祭り行くんですか？

先輩（ああ、誘われたけど行かないよ。勉強ですわ）

美和そんなに根詰めて、死にませんか？

先輩（死なねーよ）

美和……おばあちゃんのお家のほうは、お盆に花火が上がるんです。
綺麗なんですよ。

先輩（そうなんだ。花火かー。今年は見ずに終わりそうだな）

美和そうなんですネ、受験って大変だな。

先輩（俺がそうしてるだけだよ、遊んでるやつは遊んでるし）

美和先輩は、なんでそんなに頑張れるんですか？

先輩（別に。後悔したくないだけ。だから今は全力。）

美和 後悔したくないだけ、か……。

先輩（どうかした？）

美和 先輩のくせに、無駄にかっこいいなって思っただけです。

先輩（無駄ってなんだよ）

美和 そのままの意味ですよ、ふふ。

先輩（……ま、あれだ。引き続き、良い夏休みを）

美和 はい、ゆっくりらせていただきます。

先輩（うす、じゃあまた始業式に）

美和 ……始業式？

先輩（どうせ、また迎えに来るんだろ？）

美和 ……！

はい、もちろん。迎えに行きます！

先輩（はぁ……。新学期もまた毎日お前の顔を見るわけだな）

美和 そうですね、そうなります！

先輩（今のうちに一人の時間を満喫するわ）

美和 そうしてください。新学期になったらまた、毎日一緒ですから。

先輩（言い方……）

美和 ふふ！ ……あの、電話、ありがとうございます。

先輩
（ん？ ああ）

美和
じゃあ、そろそろ、切りますね。
先輩
（おうよ）

美和
明日も、頑張ってくださいね。

先輩
（うん、ありがとう）

美和
じゃあ……おやすみなさい、先輩。